

SOCDAを全国共通基盤として活用するための LINE公式アカウント「AI防災支援システム」による実証実験を 全国展開に先駆け神奈川県にて実施

AI防災協議会(理事長:江口 清貴)は、2021年2月26日、神奈川県にて、「防災チャットボット『SOCDA*¹(ソクダ)』(以下、SOCDA)を全国共通基盤として活用するためのLINE公式アカウント「AI防災支援システム」*²による実証実験を実施しました。

LINE公式アカウント「AI防災支援システム」は、SOCDAを全国共通基盤として活用するためのインターフェイスとして開設し、これまでに実証実験を重ねてきたSOCDAの「情報投稿機能(住民からの“情報収集”)」に加え、「避難支援機能(住民への“情報提供”)」を新たに実装しています。

「避難支援機能」を稼働させるための避難所・避難場所・ハザードマップのデータベースは、神奈川県ならびに県下の複数市町にご協力いただき構築しており、今回は主に、そのデータベースに基づいた「避難支援機能」の稼働検証を行いました。

具体的には、大型台風による風水害が発生している想定のもと、SOCDAを通じ、住民への避難行動のための情報提供や、自治体側での住民の避難状況の把握が問題なく行えるか、また、そういった情報が県下の自治体が連携する広域避難体制に活用できるかなどの検証を行いました。



神奈川県 災害対策本部室

実証実験では、住民の避難が進むと、避難所ごとに避難者数、避難予定者数が増えていき、避難所定員に達する避難所が出てくる状況が把握できました。また、SOCDAを通じて新しい避難所の開設判断や、隣の自治体と連携した広域避難が実現できることが確認されました。

※本実証実験は、神奈川県と県下の15市町の職員を対象に行い、住民役も職員が務めました。

※実施内容詳細・実施後のアンケート結果については[こちら](#)をご確認ください。



避難所は定員オーバーとなりそうだが、河川氾濫の危険があるため、空いている市内の避難所への避難は危険。

隣接の市と連携し、隣の市で避難者の受け入れを決定。

越境避難の受け入れを決定



オンラインによる藤沢市、鎌倉市との連携

今後、各地での情報を統合してデータベースの充実化を図り、「避難支援機能」の利用可能範囲の拡大を目指します。また、LINE 公式アカウント「AI 防災支援システム」は、SOCDA の本格的な社会実装への足掛かりとして、実証実験の結果を踏まえ、今年中には住民の方へも公開する予定です。

* 1 SOCDA:「対話型災害情報流通基盤」。通称 SOCDA = SOCial-dynamics observation and victims support Dialogue Agent platform for disaster management

国民一人ひとりの避難と災害対応機関の意思決定を支援するチャットボット。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人情報通信研究機構、株式会社ウェザーニューズが、LINE 株式会社の協力を得て、研究開発を実施している。

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が主導する戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)第2期「国家レジリエンス(防災・減災)の強化」のテーマ I 「避難・緊急活動支援統合システムの研究開発」(研究責任者:防災科学技術研究所 臼田裕一郎)のサブテーマ 2「対話型災害情報流通基盤の研究開発」に位置づけるもの。

* 2 LINE 公式アカウント「AI 防災支援システム」

詳細は、AI 防災協議会プレスリリースをご参照ください。

<https://caidr.jp/data/2021-02-18press.pdf>